



# 「行政評価システム」 目的は何か、策はないのか

～ 9 月議会には提示～



ふか たい せい ぞう  
深 田 征 三

## 質

市は行財政改革を積極的に推進する中で、毎年度、事務事業などを評価し、恒常的に改善や見直しを行い、より効率的で質の高い行政の実現に努めるため、市政運営の基本システムとして、平成20年度から「行政評価システム」を導入した。3年を経過するも、いまだ議員にも理解できない。改善策はないのか。



## 答

市長

平成22年度決算を見ながらその結果を同時に評価し、平成24年度当初予算編成に活かしていく手法が、「評価と予算の連動」を可能にするものと考えます。9月議会には事務事業評価結果を決算書と同時に提示できればと考えております。

## 質

清川中学校移転改築事業については、「豊後大野市学校施設耐震化計画」が議会に報告されたのみで、移転改築の説明も報告もいままま進んでいる。本年度の同中学校への進学状況からしたとき、中学校教育のあり方、生徒の学習環境とは何かの真剣な議論もないまま、行財政改革の最中、近い将来大きな禍根を残すことはないのか。

## 答

教育長

平成30年の生徒数の予測では、三重中学校は、ほぼ現状のまま推移しますが、そのほかの6校が極小規模校となります。全てが一年一クラスとなり、あらゆる分野で現在よりさらに少人数による学校運営を行うこととなります。しかし、教育に対する平等性を維持することから、町ごとに中学校があることが現時点においては必要と考えられています。

清川中学校建設は生徒のためか  
↳教育に対する平等性の維持↳



清川中学校完成予想図